

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.153

2016年4月1日 沖縄に安値玉が消えた日 (160401)

2017年7月1日 本土はどうなる？

□ 沖縄の現状 (那覇よりレポート)

GW直前ですが、このメルマガは那覇で書いてます。2016年4月1日以来の那覇です。

この日を境にして、沖縄は [PB天国] ⇒ [PB地獄] に変わってます。

- PB玉は、潤沢にあり欠品等の心配は存在しない。(太陽石油 ⇒ 南西石油で十分に供給されてます)
- 但し、価格は高いです。[PB玉] ≥ [系列玉] : 最大で3円程度高くなっている可能性があります。本土の逆です。
- ほぼすべてのPBはマークアップを希望していますが、1年以上経過しても、マークアップしたPBは存在しません。(PBがマークアップを希望して、元売りが拒否することは独禁法上の問題はないと考えてます)

□ 沖縄と本土の比較

	160331以前の沖縄	現状の本土	160401以降の沖縄	7/1以降の本土
PB玉の供給量	需要 < 供給	需要 < 供給	需要 ≒ 供給	需要 ≥ 供給か？
同上の供給元売	ペトロプラス	ほぼ全元売	TG ⇒ 太陽へ	コスモ、キグナスのみ？
卸価格	PB安 / 系列高	PB安 / 系列高	PB高 / 系列安	極端なPB安は消失か？
PBのマークアップ	全く希望なし	マークアップはちらほら	希望しても実現せず	どうなるのでしょうか？
商社	ほぼ1社のみ	多数の商社がPB玉を供給	1社が大半のPBへ供給	商社の廃業等が進む？ 商社再編も

□ 4月末の本土の状況

- 海上玉がほぼ消失でも買い手不在で玉余り：マーケットが成立しない状況です。⇒ 5月以降はどうなるのでしょうか？
- 陸上玉は海上玉の陸揚げ ⇒ 陸上も海上に連れて安い。
- 輸入採算価格を下回っているの、輸入玉が原因ではない。⇒ 商社は赤字で推定します。
- PB玉の供給には、海上玉は不可欠ではありません。⇒ 供給不安はなし。

□ 7/1以降はどうなるか？

- 長期契約しているSSが居ない商社は生き残れるのか？
- 系列業転格差はどこまで縮小するか？沖縄のように逆転もあるのか？

□ 昭和シエルの契約上の輸出解禁は4/1

前回4/17のメルマガで昭和シエルの輸出解禁日を [2/1] と記載しましたが、実際は [4/1] だそうです。

いずれにしろ、全元売輸出可能なのです。再度記述しますが

業転玉は根源的な変化到来です：公正な競争環境で、真の運営力が問われる時代が到来！

- 本土では、常にPB高系列安となることは無いと思いますが、系列業転格差は大幅に圧縮されると思います。
- 公正な競争環境が整い、真の運営力が問われる時代が到来します。
- 系列もPBも7/1を目標に粛々と準備しましょう。

7/1より JXTG基準価格

□ 「『JXTG仕切価格体系』の展開について」 (217年7~9月版)

先週から、特約店への説明を開始しています。

- 合併により、7/1より仕切り体系を統一する。(TGの外販価格も適用)
 - 形式上はほぼ現状のJXの価格体系に合わせる。
基本価格 = JXTG基準価格 + フレート + 販売関連コスト (3円) △特約店規模格差 (最大0.5円) △SS規模格差 (最大1.0円)
 - JX先行指標価格の名称がJXTG基準価格
 - ・原油コストの変動幅を基本に
 - ・国内外製品市況等を総合的に勘案
- 史上初「国外製品市況」を勘案 = 輸入採算価格連動？ (MOPS : シンガポールの海上石油連動？)
国内の海上マーケットの動向と共に「要注意」です。

5/8のTOCOMの石油製品スワップ市場の開設の懇親会に参加します。参加される方はお声かけください。